



石神井南中学校 学校だより

平成29年度 第11号
発行日 3月 5日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長 児島 泰彦

3月になり、少しずつですが、春を感じられるようになってきました。梅の花は咲き、桜の芽も少しずつ膨らんできています。まもなく3年生は本校を巣立ち新しい道に進んでいきます。1・2年生もそれぞれ進級し、心も体も成長してきています。我々大人はこうした生徒たちの道しるべになりたいものです。迷ったり、悩んだりした時にそっと寄り添うことができるそのような大人でありたいと思っています。卒業式まであと10日余り、思い出をたくさん作って中学校生活を謳歌してください。

<道徳朝礼>

— がんばれ 顔晴 —

冬の祭典、平昌オリンピックが2月25日に閉幕しました。今回も日本選手の活躍が多くの競技で見られました。フィギュアスケートでは羽生選手が大会前の怪我のアクシデントを見事に乗り越え金メダルを獲得しました。また、羽生選手を小さい頃から目標にしてきた宇野選手が銀メダルを獲得し、日本人が上位を独占する快挙を達成しました。羽生選手は痛みが治まらず痛み止めを飲みながら競技していたそうです。フリーの演技を終えたあとに怪我した右足を触っていたのが「よく最後までもってくれた」と言っているようで、とても印象的でした。全部で金メダルは4つ、銀メダルは5つ、銅メダルは4つを獲得しました。どのメダルにも選手それぞれの獲得までの様々なエピソードがあるようです。

「顔が晴れる」と書いて「顔晴（がんばれ）」。これはスピードスケート女子500mで金メダルを獲得した小平選手が高校3年生の時に書いた作文のタイトルです。

中学2年で高校生らを抑えて全日本ジュニア選手権スプリントで優勝し、頭角を現していた小平選手ですが、高校2年生の時に大きなスランプに陥ったのだそうです。不安と焦り、悔しい思いを何度もした。スケートの楽しさを忘れてしまうほど辛くて、自信がもてない自分が嫌いになった。結果が出ないから大好きなはずのスケートも楽しめなくなり、スケートリンクで「笑う」ということがなくなってしまったそうです。周囲の人たちから「頑張れ」と言われると余計苦しくなり、前に進める気がしなくなってしまったそうです。そんなとき、あるコーチからもらった言葉が「顔晴（がんばれ）」でした。

「本当のガンバレは顔が晴れたこと。辛くても笑顔は忘れちゃいけない」。「頑張れ」という言葉に疲れ、いつの間にか下を向くようになっていた小平選手をこの言葉が救ってくれたそうです。

小平選手は、「よい記録を出すことより、何より笑顔で顔晴^{がんば}ることが、今の私にできる感謝の気持ち、恩返しです。」と、その作文は締めくくっています。その後もたゆまず努力を積み重ねて、念願の金メダルを獲得しました。

皆さんも小平選手のように、笑顔で頑張れる（顔晴）生徒であってほしいと願っています。

2年生校外学習を終えて

2学年主任 田川 慎

雨が予想されていた当日。天気が味方になり、どの班も無事に石神井公園駅を出発することができました。しかし、電車が人身事故の影響で止まるというトラブルが起きてしまい、多くの班がこの影響を受けて、大分遅れて鎌倉駅、北鎌倉駅に到着することになりました。トラブルはあったものの、班長がしっかりと本部に現在の状況を報告してくれたため慌てることなく行動ができました。鎌倉市内では、各班がほぼ予定していた通りに見学することができ、帰りも朝の影響で電車が遅れてしまいましたが、全ての班が無事に石神井公園駅に帰ってくることができました。班長を中心に仲間と協力して行動するという目的は達成することができました。

今回の校外学習は、スキー教室との同時進行になり気持ちの切り替えが難しい部分もあったと思いますが、事前学習から本当に良く頑張ったと思います。事前、当日、事後と学習を進めていく中で、生徒も様々なことを学ぶことができたと感じることができました。今回出てきた改善点を来年度に引き継ぎ、生徒にとって「修学旅行」が最高の思い出となるよう、これまで以上に主体的に取り組ませていきたいと思っています。



小町通り



高德院（鎌倉大仏）



銭洗い弁財天



鶴岡八幡宮